

アライナー治療成功への手引き

-適正な使用で成功する SureSmile® アライナー治療-

シュアスマイル

DS Core と SureSmile® ソフトウェアを使用した カウンセリング

一般の歯科クリニックには毎日多くの患者が来院し、歯周治療や根管治療、修復・補綴治療に外科処置、多岐にわたる主訴や症状を持つ患者に対し私たちは診査診断を行い患者にその結果を報告し、患者に私たちが提供できる最善の治療計画を伝え、同意してもらうことで初めて治療がスタートする。しかし、疼痛を改善するための応急処置とは違い矯正治療や咬合治療、審美修復などは、私たち歯科医が必要と感じていても患者が治療の必要性を実感していない場合、治療の同意を得ることは難しい。その原因の一つとして、患者が自身の口腔内の状態を理解できていないことが考えられる。DS Core^(※1) は患者の3D データや顔貌・口腔内写真など必要なデータを患者と同時に確認し共有できるため患者の理解が向上し治療の同意を得やすくなると実感している。今回、当院で採用している DS Core と SureSmile® ソフトウェアを使用したカウンセリング方法を紹介する。当院では患者が来院された際、疼痛を改善するための応急処置を除いて、顔貌・口腔内写真と同時に Primescan を用いて全顎をスキャンする。これらのデータは DS Core 上に自動でアップロードされる。また撮影したレントゲン写真も Sidexis4 からシームレスに DS Core 上にアップロードできる。口腔内写真や顔貌写真は手動でアップロードすることですべての患者の資料が入ったファイルが完成する。初回のカウンセリングを終了した患者が矯正治療が必要な場合、SureSmile® 上でデジタルセットアップを作成しそのデータを DS Core に保存する。現在は手動だが、将来的には自動になることを期待している。これらのデータはクラウド上の患者のファイルにまとめられ、使用したいデータを Communication Canvas^(※2) に展開しカウンセリングを行う。使用したデータを患者に共有し自宅の PC でデータを確認し理解頂くことで記憶にも残りより良い治療の選択をして頂ける。

(※1) DS Core : 包括的な治療にアプローチするクラウドソリューション

(※2) Communication Canvas : 多彩なメディアと患者をつなぐコミュニケーションキャンバス



小林 祐二 先生

You すまいる歯科

略歴

愛知学院大学卒業

日本臨床歯科学会

日本臨床歯科 CAD/CAM 学会 指導医



動画視聴の ご案内

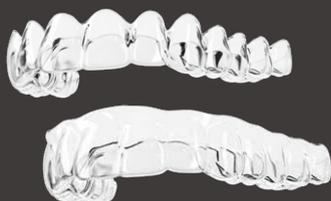
(視聴時間：約 5 分)

下記 QR コードより
「SureSmile® ×
Ds Core の活用法」
動画を視聴することが
できます。

*動画視聴は無料です。



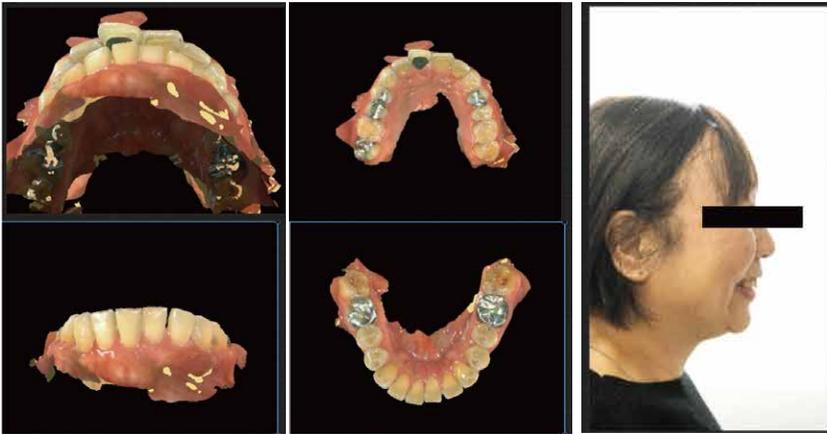
<https://x.gd/TErs9>



SureSmile® ソフトウェアは、顔貌からインサイザルポジションを決定するプランが容易に作成でき、デジタルセットアップまで (CT の結合は除く) の計画は無料のため患者のカウンセリングに有効である。

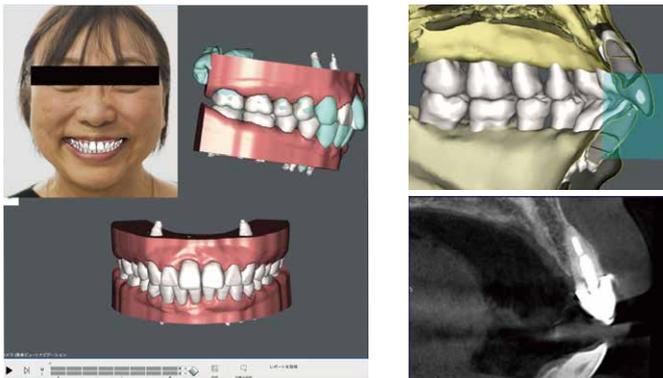
DS Core と SureSmile® ソフトウェアを使用した カウンセリングステップ

1 初診カウンセリング（主訴・問題点の確認）



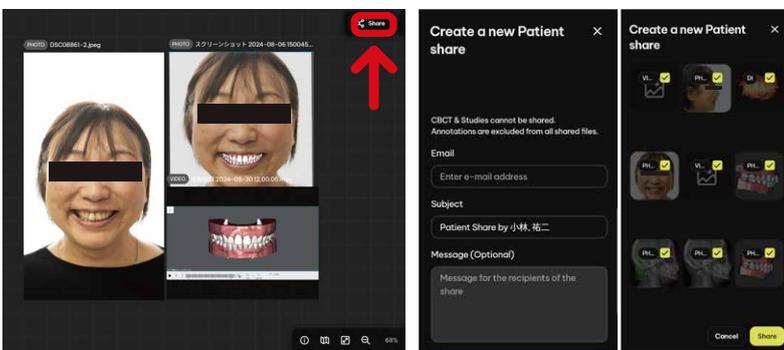
Communication Canvas で 側 貌 と Primescan で採得した3 D データを使用し主訴や問題点を患者と共に確認する。患者が矯正を希望された場合、セファロとCT を追加撮影し SureSmile® にてセットアップを作成する。

2 SureSmile® ソフトでの矯正治療プランニング



SureSmile® ソフトウェアでは正面観顔貌写真と歯列の3D データ (.STL) と結合、別途有料ではあるが DICOM データとも結合し、顔貌写真と前歯の位置から上下顎の正中とスマイルラインを決定しボーンハウジングから歯根が逸脱しないように計画を作成する。しかし、皮質骨と海綿骨が区別できないためより安全にプランニングしたい場合はCTで確認することが望ましい。

3 最終カウンセリング・シェアしたときに患者が意思決定



診断やカウンセリングで使用した初診時に採得したデータや SureSmile® ソフトウェアで作成したデータを Communication Canvas 上で展開する。術前の顔貌写真、デジタルセットアップした顔貌写真、矯正治療術前術後の移動量や治療期間がわかるデータで治療計画の最終確認を行う。これらのデータを “Share” ボタン（左図矢印）から患者のメールアドレスに送信し、患者は自宅の PC で同じデータを確認し自身の状況を把握することで治療内容を決定する。